

戦後70年記念 大阪港周辺戦争体験・復興記録事業

1 事業の趣旨

戦後70年である今年は奇しくも港区政90周年の節目の年です。

この機会に戦争の恐ろしさや平和の尊さを後世に語り継ぐため、港区を中心とした大阪港周辺の戦争被害や復興の歴史を伝える資料を収集・整理するとともに、戦争の体験談を記録しデータとして保管します。そして、収集・整理した資料をわかりやすく広報することで、まちの歴史を振り返るとともに、先人たちがまちの発展に尽力した「思い」や「心意気」、そして、「人と人とのつながりの大切さ」を将来のまちづくりを担う若い世代に引き継いでいきたいと考えています。



昭和20年6月大空襲直後の三先1丁目付近

港区の歩み

【第2次世界大戦まで】

江戸時代から大阪の海の玄関口として賑わってきた築港・天保山を擁する港区は、戦前、最大32万人もの人々が住むまちとして大きく発展しました。しかし、昭和20年の大阪大空襲による壊滅的な被害に加え、終戦直後の枕崎台風による高潮被害により人口は9千人を下回るところまで激減しました。

【戦後の復興】

戦後は、「大阪市の復興は港から」を合言葉に、世界でも類を見ない全面盛土方式による区画整理事業で区域の約9割に2mの盛土が施され、港区は、45年の歳月を費やして水害に負けない、平坦で区画のわかりやすいまちによみがえりました。

2 主な取組

(1) 資料等の収集・記録・整理

戦前から戦後の港区を中心とした大阪港周辺の建物、街並みなどの風景や戦後復興事業を伝える写真、映像、資料、記録等（資料等）を広く区民、市民から募集し、集めた資料等を整理・記録します。

(2) 戦争体験者（語り部）の映像等の記録

大阪港周辺や港区内で戦争を体験された方の体験を聞き取り、記録を作成します。

収集した資料等や語り部の記録をわかりやすく取りまとめ、広報紙やホームページ等で広報します。

(3) 冊子やDVDの作成

収集した資料等を活用し、学校等の活用も含め広く市民に広報していくためのDVDや冊子を作成します。

(4) パネル展示等

収集した資料等を活用し、パネル等にし、港区役所の区民ギャラリーや区民まつり等のイベントで展示します。

3 今後の主なスケジュール

- ・平成27年7月～：市民に対し広報紙・区ホームページ等で、戦争体験を話していただける方（語り部）や戦争前後の写真や映像資料の募集開始（8月31日まで）
- ・平成27年8月～：写真、資料等の記録（整理・編集）を開始
：広報紙・区ホームページ等で戦中・戦後の記録の広報を開始
- ・平成27年10月：区民まつりで企画展示等
- ・平成28年2月：冊子及びDVDの完成
- ・平成28年3月：フォーラムを開催（予定）



昭和29年 盛土工事中の商店街